

ハウジ峠の中央構造線(地学散歩(53))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 道林, 克禎 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025210

ホウジ峠の中央構造線

道 林 克 禎*

地学散歩 (53)

中央構造線は、関東山地から九州まで続く総延長 1,000 km に達する日本列島最大の断層である。さらに、高圧型三波川変成岩類と低圧型領家変成岩類とを接触させるという点で地殻構造上極めて重要な位置を占めている。この中央構造線が静岡県北西部の佐久間町と水窪町を北東から北北東走向で横切っている。そのなかで、佐久間町の佐久間地区と城西地区を結ぶ急峻な県道は中央構造線沿いにほぼ平行なので、道沿いにこの大断層の特徴をその両側の岩石とともに容易に観察することができる(図1)。北条(ホウジ)峠は、この県道の峠である。北条峠周辺は最近整備が進んでおり、「ホウジ峠の中央構造線」として県の天然記念物にも指定された。その趣旨は中央構造線が最もよく観察できる地点だということにある。

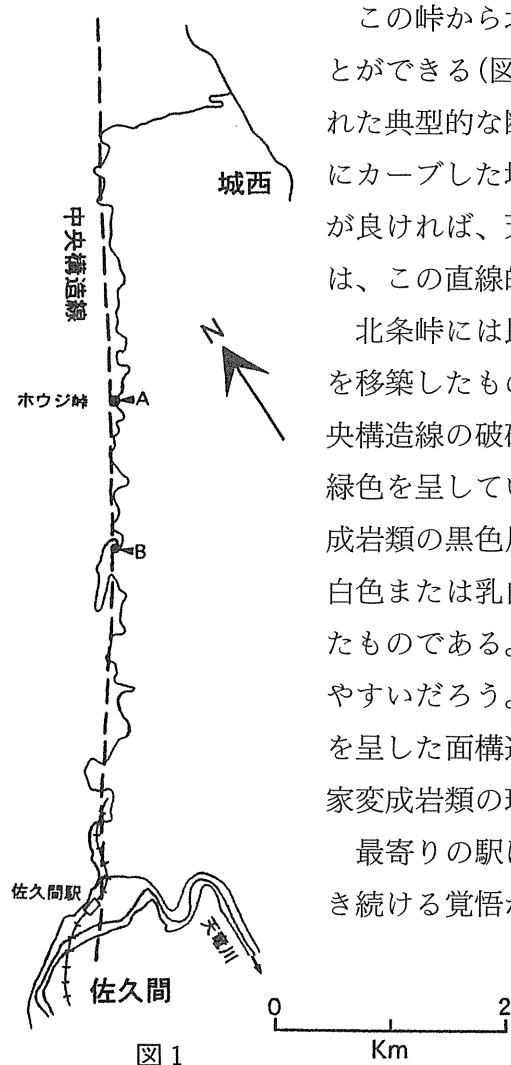


図1

この峠から北東方向を望むと山の尾根が不自然にくぼんだ所を確認することができる(図1のA地点;写真1)。これは、中央構造線の破碎帯が浸食された典型的な断層地形である。また北条峠を南西に下っていくと、道路が急にカーブした地点で直線的な谷を展望できる(図1のB地点;写真2)。天気の良いければ、天竜川とその支流の大千瀬川が望めるはずである。中央構造線は、この直線的な地形に沿っている。

北条峠には民族文化伝承館(写真3)が建てられている。江戸時代の民家を移築したもので、週末には郷土料理も味わうことができる。この建物は中央構造線の破碎帯の直上にあたり、その周辺に断層運動によって黒色から暗緑色を呈している破碎された岩石が観察される(写真4)。これらは三波川変成岩類の黒色片岩や緑色片岩が破碎されたものである。所々に挟まれている白色または乳白色の塊は石英や方解石の脈が断層運動によって引きちぎられたものである。最近解説板も設置されたので、それを参考にすると理解しやすいだろう。また、民族文化伝承館の北側の林道を上っていくと、茶褐色を呈した面構造のよく発達した岩石が露出している(写真5)。これらは、領家変成岩類の珪質及び泥質変成岩である。

最寄りの駅は、飯田線の佐久間駅。ここから徒歩で峠を目指すには1日歩き続ける覚悟が必要。車で行くことをお勧めする。

* 静岡大学理学部地球科学教室



写真 1. ホウジ峠から北東方向を望む。



写真 2. ホウジ峠からは南西に位置する二本松峠近くから南西方向を望む。天竜川とその支流である大千瀬川が、中央構造線に沿って形成された直線的な谷沿いに流れている。



写真3. 民族文化伝承館



写真4. 中央構造線によって破碎された三波川変成岩類。



写真5. 面構造のよく発達した領家変成岩類。